



かほちゃん と ぼうごい 防災ぶくろ



かほちゃんと

ぼうごい

防災ぶくろ





かほちゃんは 5さい。

^{だいす}大好きなつみきで

あそんでいると

お^{かあ}母さんがよびました。

「かほちゃん、

ちょっと手つだって〜！」

お母さんは言いました。

「ぼうさい
防災ぶくろにものを
つめるのを手伝って
くれる？」



でもかほちゃんはぼうさい
防災ぶくろのことを
知りません。

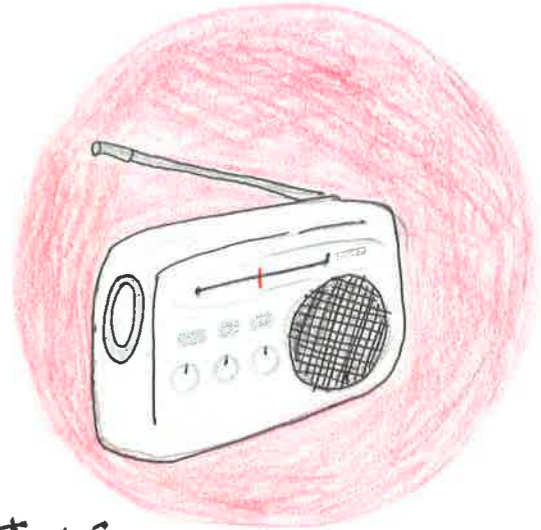
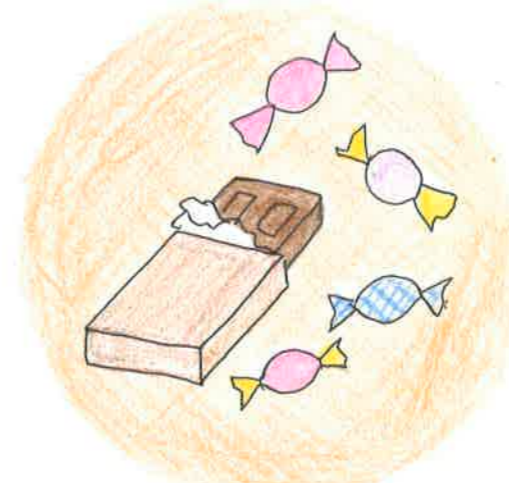
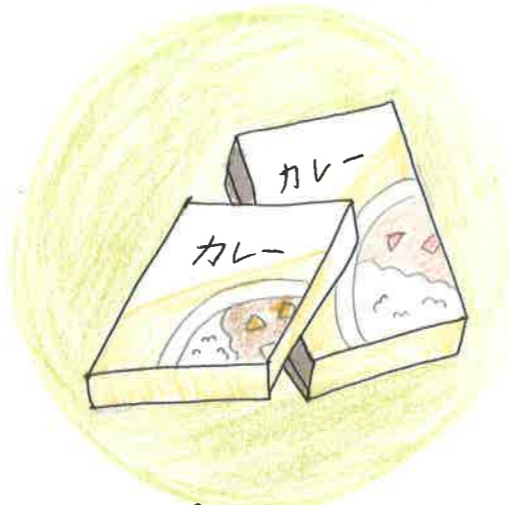
かほちゃんは聞きました。

「ぼうさい
防災ぶくろ、て、なに？」



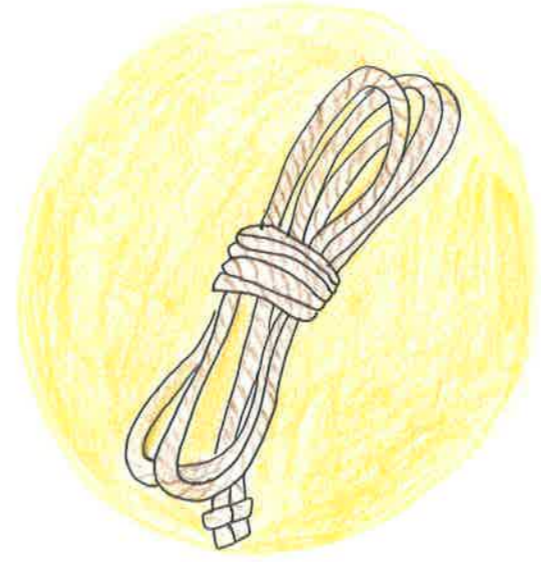


「^{ぼうさい}防災ふくろはね、^{じしん}地震や^{つよみ}津波が
あったとき、にげるときにもっていくんだよ
^{せいかつ}生活するの^{ひつよう}に必要なものをいれておくの」



水に レトルト ^{しょくひん} 食品に
 ライトに くりに

チョコにあめに ラジオに
 ロープに マッチ しまかにもしまかにも





「すぐ^も 持っていけるように
出し^だ やすいところへ おいておこう。」

「なか^{なか}の 食べものは 食べられなくなる^ま前に^{まえ}
父^{ちち}かんしようね。」

「はい！」



^{じしん}地震はいつおこるか
わからぬ。

いつおこっても にげられるように

^{ぼうさい}防災ぶくろを

つくろう！！